

## 古書の収集と利用

## ーケインズと平賀源内の共通点ー

法学部教授

浅 羽 隆 史



最初に問題です。ジョン・メーナード・ケインズ（1883～1946年）と平賀源内（1728～1779年）の共通点は何でしょう。

ケインズは、有効需要の原理などを明らかにし、『雇用・利子および貨幣の一般理論』（1936年）で有名なイギリスの経済学者です。一方の平賀源内は、日本初の発電器エレキテル（摩擦静電気発生装置）の復元・完成や蘭学者などとして有名です。両者の共通点は、霊長類ヒト科である、男性である、好み…。これらは正解に違いありませんが、本誌でわざわざ問うようなことではありませんね。ここで強調したい共通点は、古書（稀覯書）収集に相当のお金を投じていたということです。

ケインズは、大学入学前から古書を収集していたそうです。成功し財を成してからはオークションも利用して、万有引力の発見で有名なアイザック・ニュートン（1643～1727年）の古書などを落札していました（ちなみに、古書のコレクターとしては弟で外科医だったジェフリーの方がより有名だったそうです）。平賀源内は、日本の植物学に多大な影響を与えたレンベルテウス・ドドネウス（1517～1585年）による植物誌『紅毛本草』の蘭訳版はじめ、オランダの古書を購入していました。香川県にある平賀源内記念館に展示されている『物産書目』で、平賀源内が入手した8種の蘭書の内容がわかります。

ケインズと平賀源内は、単にコレクターとして古書の収集そのものに喜びを見いだすだけでなく、それらを積極的に活用したという点でも共通

しています。ケインズの著書のひとつに『人物評伝』（1933年）があり、そのなかのニュートンの部分はケインズが集めた古書や書簡などを利用して書かれています。平賀源内は、入手した古書を自ら翻訳しようとした（うまくいかなかったようです）、自著に図版を利用したりしています。

さて、こうした古書収集の趣味は現在どうなっているのでしょうか。たとえば平賀源内が購入したドドネウスの『草木誌』（平賀源内の言う『紅毛本草』を現在では『草木誌』または『草木譜』と訳しています）は、平賀源内が手にしたものより後年の版のものですが、日本のある古書店で車が買えそうな値段で売られていました。ウェブ上では、多くの古書が売買され、コレクターによる保有古書紹介のホームページも開かれています。コレクションとしての古書収集は、将来もその価値を失わないのではないのでしょうか。

一方、利用するという観点では、必ずしもケインズや平賀源内の時代と同様に古書の価値があるとは限らないでしょう。これまで、数に限りがある貴重な古書を利用したい場合、ケインズや平賀源内のように多くの対価を支払い入手するか、所蔵する図書館まで足を運ばなければならないのが普通でした。そもそも、そうした古書が存在場所を知ることが、とても大変でした。しかし、そうした必要性は徐々に少なくなってきました。現在では、多くの古書がウェブ上で読むことができるようになっています。たとえば、平賀源内が相当の金額を出して購入したとされる『草木誌』は、

東京薬科大学の情報センター図書館の「電子稀観本」として、ウェブ上で閲覧できます。ケインズが集めたニュートンの古書の多くは、現在エルサレムのイスラエル国立図書館（国立ヘブライ大学図書館）が所蔵し、電子化が進められています。貴重な古書を所有する図書館は、それを適切な状態で保存するだけでなく、デジタル化しウェブ上で広く公開するのが、大げさに言えば人類への務めとなっています（もちろん、古書で著作権の問題をクリアしていることが前提です）。また、利用者の多い貴重な書物ほど、復刻版や廉価版が出版されていることも多いです。

古書の利用だけを考えれば、現在はとても恵ま

れていると言えるでしょう。もちろん、古書のほとんどが電子化された訳ではなくまだまだ不十分です。また、新しく出される書物のなかには、電子書籍としてデジタル媒体でのみ出版するケースもあり、有償でしか閲覧できないものもあり、一長一短あるのかもしれませんがね。

#### 【参考文献】

ロイ・ハロッド、塩野谷九十九訳（1967）『ケインズ伝』

東洋経済新報社

ミロ・ケインズ編、佐伯彰一・早坂忠訳（1978）

『ケインズ 人・学問・活動』東洋経済新報社

村上元三（2000）『平賀源内 上・下』学陽書房

## What I Should Have Told My Relative about College

教育学部講師

Harry Harris



During a recent Instant Message exchange with a friend whose grandson had just graduated from high school, I was told that the 18-year-old boy has no concrete plans for his future. According to my friend, the boy plans to rest for a while at his parents' home and then perhaps this fall look for a neighborhood job in a store or gas station. Now, I know the boy, and I think he is quite smart. He has acted in plays; he has written and directed a YouTube movie; and he likes to read and talk about books. However, when I suggested that he might want to look into attending a local college, my friend told me that he had no money. When I said that he should at least talk to his parents about this, my friend said that they did not think a college education was necessary. When I explained that officials at his local college might be able to give him guidance about reasons for going to college and ideas about ways to pay for it, my friend told me that there was no need for him to go to college because there were no jobs and the college experience was not important. What

should I have said?

Now, we all know that the global employment situation is not good. The UN International Labor Organization predicts a worldwide 2011 unemployment rate of 6.1% for all workers, and reports a 2010 unemployment rate of 12.6% for young workers in the 15-24 age range (International Labor Office, 2011, pp. 8-9). However, I could have told my relative that the U.S. 2010 unemployment for college graduates was 9.3% (Shierholz & Edwards, 2011, p. 1) but that it was higher for the general population. I also could have told her that there is now a global recovery and that there is a prediction that the 2011 global economy will grow at 4.2% (International Labor Office, 2011, p. 9). I could have told her that this will probably make it easier for those with college degrees to get jobs.

However, I should have told that friend that there are other good reasons for going to college, besides getting a job. For one thing, college



is a place where young people can make the transition to adulthood with many other people their own age. They will have many social experiences that they will always remember and they will establish bonds with people with whom they will travel on through life. Also, college is a place where students are exposed to many different, sometimes conflicting, ideas at an early stage of their lives. Some may think that these ideas that college students learn in their different curricular and extracurricular activities may not be useful later when they are working. However, in fact they will be useful because they will help give students a bigger picture of life and provide them with useful tools to communicate with a broader, more global, range of people in the future. Finally, completing the often rigorous requirements of a college program gives one confidence in one's ability. Doing assignments and working on projects for teachers is not always easy, but their completion can teach students that with perseverance they can carry out their plans successfully. Students learn that persistence can mean success and satisfaction.

Well, I now know what I should have said to my friend about her grandson. Of course, I should have told her that we should have hope in the future of the economy. Things will get better in the job market, and a college diploma

will be increasingly more useful. I also should have told her that there are other reasons for getting a college education: it is a place to create memories and friends; it is a place to learn many interesting things that can make your future life more interesting and global; and it is a place to learn that your efforts can provide you with greater confidence in your own efforts and confirmation of their value.

What do you think? What would you have told my friend?

International Labor Office. (2011). Global Employment Trends 2011. Retrieved from [http://www.ilo.org/wcmsp5/groups/public/@dgreports/@dcomm/@publ/documents/publication/wcms\\_150440.pdf](http://www.ilo.org/wcmsp5/groups/public/@dgreports/@dcomm/@publ/documents/publication/wcms_150440.pdf)

Ministry of Health, Labor and Welfare. (2011). Heisei 22 Daigaku Nado Sotsugyosha no Shushoku Jokyo Chosa [2010 University Graduate Employment Condition Report]. Retrieved from [http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001cww\\_6.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001cww_6.html)

Shierholz, H. & Edwards, K. A. (2011, April). The class of 2011: Young workers face a dire labor market without a safety net. (EPI Briefing Paper #306). Retrieved from [http://epi.3cdn.net/c7d6ec52122ea9c188\\_rbm6bcl4a.pdf](http://epi.3cdn.net/c7d6ec52122ea9c188_rbm6bcl4a.pdf)

## 大学について私が友人に話すべきだった事

教育学部講師 ハリス ハリー

最近インスタントメッセージを友人と交わした。そのメッセージの交換で、友人の孫が高校を卒業したばかりの18歳の少年で、自分の将来について具体的な計画を何も持っていないと聞いた。友人によれば、孫は自分の両親の家で暫く休み、多分この秋には近所の店かガソリンスタンドに仕事を探すつもりらしい。

さて、私はその少年を知っており、かなり頭の良い少年だと思っている。彼は演劇をし、

YouTubeの映画の脚本を書き監督もした、そして読書が好きで本について話すのが好きな少年である。

しかし、その少年が地方大学に入ることを調べたいかもしれない私が友人に話したら、友人は少年にはお金がないと言った。少なくとも少年の両親に、この件について話すべきだと私が言ったら、私の友人は大学教育が必要だとは彼等は考えていなかったと言った。少年の住む地方の大学の

職員が、大学へ行く理由について助言を少年にしてくれるかもしれないし、学費を払う方法についてもアイデアをくれるかもしれないと私は説明したが、友人は仕事が無いのだから大学に行く必要は少年にはない、大学での経験など重要ではないと言うのだ。私は何を話すべきだったのか？

今や、私達皆が世界的に雇用状況が良くないことを知っている。国連国際労働機関は、2011年の世界の失業率は全ての労働者の6.1%と予測しており、15-24歳の若い労働者の2010年の失業率は12.6%だったと報告している（国際労働事務所、2011 p.8-9）。しかし、アメリカの大学卒業者の失業率は、アメリカの一般人口の失業率より低いと、私は言うことができたはずだ。そして又、今は世界的に経済回復の傾向があり、2011年の世界経済成長は4.2%という予測がある（国際労働事務所、2011 p.9）と彼女に言うことができたはずだ。更に私が友人に言えたはずのことは、この改善された経済状況は大学の学位を持っている若者にとって、仕事を見つけやすくなる。何故なら、経済や社会は若い教育のある専門家を私達の多くが関係して生活している、現在のサービス産業の世界において非常に重要なものとして認識しているからだ。これも友人に言うことができたはずだった。

しかし、大学に行く為に、人間的なより良い理由があることを私は友人に話すべきだった。ひとつには、大学は自分と同年代の多くの人間と一緒に若者が大人へと移行していく場である。彼等は常に覚えていることになるだろう多くの社会経験をし、人生を通して持ち続けるであろう人々との絆もできるだろう。そして又、大学は、時には自分と対立しながらも、多くの異なった考えに彼等の若い時期に触れる場でもある。大学で学生がカリキュラムとカリキュラム以外の活動で学んだこれらの考えは後に学生が働くようになった時に役に立たないかもしれないと思う者も居るかもしれ

ない。けれども、実際には学んだことは役に立つであろう。何故なら、大学で学んだことは、学生に人生のより大きなイメージを与える助けになるし、将来、より広大で、より世界的で、より広範囲な人々とのコミュニケーションの為に役立つ道具を大学は学生に与えるからだ。

最後に、学士課程で多くの場合厳しい必要事項を達成することは学生に自分の能力に対する自信を与える。宿題をしたり、教師の出す研究課題について作業したりすることは、常に容易なものではないが、それらを完了することは学生に彼等が忍耐強く自分の計画や考えをうまく遂行していくことを教えるものである。学生は粘り強さは成功と満足を意味することを学ぶことができる。

さて、友人の孫について、彼女に何を私は言うべきだったのか今わかる。勿論、彼女に私達は経済状況の将来性に希望を持たなければならないと私は言うべきだった。雇用状況は良くなるであろうし、大学卒業証書はますます、より価値のあるものになるだろう。大学教育を受ける為にもっと他の理由もあると彼女に言うべきだった：思い出と友達を作る場であり、学生の将来をより興味深く、グローバルにすることができる沢山の興味深い事を学ぶ場である。そして、熱心な努力は自分の能力により大きな自信と価値の確認を与えられることを学ぶ場であると。あなたはどう思いますか？ あなたなら私の友人に何と話したでしょうか？

#### 参考：

International Labor Office. (2011). Global Employment Trends 2011. Retrieved from [http://www.ilo.org/wcmsp5/groups/public/@dgreports/@dcomm/@publ/documents/publication/wcms\\_150440.pdf](http://www.ilo.org/wcmsp5/groups/public/@dgreports/@dcomm/@publ/documents/publication/wcms_150440.pdf)

## ささやき

38号は紙面の都合により先生に執筆していただいた記事のみになりましたが、「こんなことを載せて欲しい」といったことがありましたら館員までご提案をお寄せ下さい。もちろん、投稿も大歓迎です。

平成23年10月31日 発行

編集 図書館だより編集委員会

発行 白鷗大学総合図書館

〒323-8585 栃木県小山市大行寺1117

ホームページ <http://hakuoh.jp/library/index.html>

印刷 株尚文堂印刷所